

一カク



翻訳者養成講座

去る3月15日、翻訳者養成講座2025が開催され、11名が参加しました。委員長の岡崎マーロン会長が、寺田好和先生の「翻訳・通訳はおたすけである」という言葉を紹介し、5人の上級翻訳者が、6人の若者（最年少は小学6年生の2人）を指導しました。次回、通訳者養成講座は9月に開催予定です。

天理教アメリカ伝道庁

No.929



TenrikyoAmericaCanada.org

APRIL
2025



つらつらせんがく 熟々浅学



—「ありがとう」と言える?—

今月 18 日、教祖は 227 回目のお誕生日をお迎えになられます。それぞれの土地所よりお祝い申し上げていただきたいと思います。

現在は、教祖 140 年祭に向けて、更に“ギアアップ”して布教を推進する時期です。「成人の旬」、「たすけの旬」と言われる年祭活動期間、お互い切磋琢磨して活動を推進したいと存じます。特に今月と来月は、各地区で「ひのきしんデー」が行われますので、近くの会場でご参加いただきたいと思います。また、5 月末、或いは 6 月初旬に各地区で「ようぼく一斉活動日」が執り行われますので、ご参加いただきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

さて、私は、なるべく心掛けていることがあります。それは、人に何かをしてもらった時に「ありがとう」と言うよう努めることです。

当たり前のことかもしれませんが、私たちは時に他のことに気を取られ、「ありがとう」と言いそびれてしまうことがあるのではないのでしょうか。自分では気づいていないこともあるかもしれません。

また、状況や感情によって「ありがとう」と言えないこともあるでしょう。例えば、自分の望んでいない行動を他人がした時、素直に「ありがとう」と言えるでしょうか。周囲の人が親切心で行ったことが、かえって迷惑や邪魔になった時、自分の意に沿わないことをされた時、それでも心から「ありがとう」と言えるでしょうか。

つまり、自分にとって「親切の押し売り」や「有難迷惑」と感じるような行為に対して、快く「ありがとう」と言うのは難しいこともあるかもしれません。周囲の人が善意でしてくれた行為であっても、それが自分にとって負担に感じられる時、素直に感謝を伝えるのは簡単ではないのではない

でしょうか。

また、何も頼んでいないのに、周囲の人が自分を気遣い、自分の知らないところで勝手に物事を進め、後になってそれを伝えられたり提示されたりした時、素直に「ありがとう」と言うのは難しいことがあるのではないのでしょうか。つまり、人が「お節介を焼いた」と感じるような状況です。

他にも、周囲の人々が一生懸命に物事を進めた結果や結論が、自分の意に沿わないものであった時、心から「ありがとう」と言えないこともあるかもしれません。

「ありがとう」と素直に言うことは、意外と難しい場合があると思います。きっと、皆さんもそうした経験があるのではないのでしょうか。

日本のシンガーソングライター、井上陽水（ようすい）氏と奥田民生（たみお）氏の合作による歌に「ありがとう」があります。ご存知の方も多いと思います。この歌では、人が自分にしてきているさまざまな行為に対して「ありがとう」と歌っています。例えば、「微笑んでくれて」、「プレゼントくれて」、「楽しんでくれて」と身の回りで起こっていることに対して「ありがとう」とありますが、歌詞の最後の方では「つめたい人」や「イヤな人」という、素直に「ありがとう」と言いにくい相手に対しても「ありがとう」とあります。そして最後には「みんな みんな ありがとう」とあり、自分の周囲の全ての人々に対して感謝の気持ちを伝えています。

作詞者たちの思いは分かりませんが、「ありがとう」の歌詞を一通り読みますと、人生の最後、つまり出直す直前に「ありがとう」と言っているようにも思われます。確かに、最期には、つまり出直す時には周囲の人々に「ありがとう」と言いたいと思います。

さて、「ありがとう」と同じように、「はい」と素直に、すぐに言えないこともあるのではないのでしょうか。「はい」と受け入れることが難しい場面もあると思います。

例えば、仕事で上司から無理難題なプロジェクトを任せられると言われた時、素直に「はい」と受け入れられるのでしょうか。或いは、忙しい時に他の用事を頼まれた時、「はい」と答えてすぐに行動できるのでしょうか。さまざまな状況で「はい」と返事をし、心から受け入れることが難しい場合があると思います。

お道の教えにおいて、「理の親」と言われる方からの言葉には、どのようなことであっても、先ずは「はい」と受け入れることが大切だと聞くことがあります。その意味するところは、「先ずは理を受け入れる」ということではないかと思えます。

その象徴的な例が「元の理」にあります。月日親神様が「うを」と「み」を引き寄せられる時に、「その一すじ心なるを見澄ました上」とある部分が、それを示しているのではないかと思うのです。先ずは「一すじ心」になること——つまり、親神様の方へ心向け、その思いに添うようにすることが大切なのだと思います。少なくとも、その努力をすることが求められるのではないのでしょうか。

「この世は神の身体」とお聞かせいただきますが、それは、この世界で起こるさまざまな事柄は親神様がお見せくださっているという意味が含まれているのではないかと思うのです。

諭達第4号に、

「頻発する自然災害や疫病の世界的流行も、すべては私たちに心の入れ替えを促される子供可愛い親心の現れであり、てびきである。」

(諭達第4号5頁)

とありますが、自然災害や疫病だけでなく、親神様の身体で起きるすべての事柄には、何らかの「意味・理由」が含まれていると思うのです。つまり、親神様のメッセージが含まれていると思うのです。それは、「私たち人間を陽気ぐらしへと導きたい」というメッセージだと思うのです。

このように考えますと、どのような出来事にも、何らかの親神様の思召が含まれていると捉えることができます。そのため、先ずは「はい」と言って、親神様の思召を受けることが大切なのではないのでしょうか。その上で、どのように親神様の思召に

応えるかを考えることが重要です。

もちろん、「はい」と答えて「理を受けた」上で、「いいえ」と断る選択肢もあるかもしれませんが、それは状況によって異なるでしょう。時には「無理難題」と思われることもあるでしょうし、そのような場合には「いいえ」と断る選択肢も存在するのではないかと思います。その判断は難しいかもしれませんが、それでも、先ずは「はい」と言って「理を受ける」ことが大切ではないかと思うのです。

もちろん、「このような受け取り方は違う」と思われる方も居られるかもしれませんが、しかし、「はい」と言うことは、心を開き、柔軟に受け入れる姿勢に繋がるのではないのでしょうか。

「はいと言え」と仰せられている「おさしづ」があります。

明治29年4月21日（内務省訓令発布相成りしに付、心得まで伺）の一節に、

「…これがいかなと言え、はいと言え。これより這い上がる道は無い。もう安心の言葉を下げて置こう。これがならんと言えはい、いかなと言えはい、と、答えて置け。」

この「おさしづ」の割書きにありますように、所謂「秘密訓令」が政府から発布された時に対する心構えが諭されています。どのような困難な道中であっても、親神様の御守護があることを根底に据え、それを心に治めつつ、心を倒さずに「はい」と言って「這い上がる道」を付けなさいと諭されています。これは伏せ込みの期間であると言われるように思われます。

少し飛躍した悟りの締め括りになるかもしれませんが、「ありがとう」や「はい」といった言葉は、人間関係を円滑にする“潤滑油”のような大切な言葉だと思います。

また、「ごめんさい」と素直に言えないこともあります。多くの場合、それはプライドが邪魔をしているのではないのでしょうか。

皆さんはどう思われますか。

深谷 洋

立教188年三月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、一れつ人間の陽気ぐらしを楽しみに、日夜変わることなくお見守りくださるお陰により、日々を無事に結構にお連れ通りいただいております御守護の程は、誠に勿体なく有難い限りでございます。私共は、怠ることなく朝に夕におつとめを勤めて御礼申し上げると共に、それぞれの持ち場立場で、たすけ一条の道を心明るく通らせていただいております。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の三月の月次祭を執り行う芽出度い日柄に当たりますので、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに参り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御厚恩に改めて御礼申し上げ、心の成人をお誓い申し上げ、更なる御守護にお継りたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御照覧くださいませ、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。昨日は、本年の春季霊祭を滞りなくつとめ終えさせていただくことができまして、誠に有難うございました。これからも霊様方の御功績を台にして、更なる心の成人に励み、道の伸展に努めたいと存じます。

私共は、教祖百四十年祭年祭活動仕上げの時句に、世上にお見せくださるさまごまな紛争や災害を鑑みて、世界一れつが治まるよう、教祖のひながたを頼りに、益々にをいがけ、おたすけに努めたいと存じます。また、次代を担う若者たちに御教えを伝えて後世に道を繋げる所存でございます。何卒、親神様には、私共の誠真実の心をお受け取りくださいます、更なる自由自在の御守護を賜り、世界の人々が真実のをやを慕って、感謝と喜びの心に満ち溢れて暮らせる陽気ぐらしの世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

三月月次祭神殿講話

アメリカウエスト教会長
林 孝彦

今日の講話を始めるにあたり、庁長先生のリーダーシップのもと、アメリカ伝道庁3月の陽気ぐらしの月次祭に参拝できたことに感謝いたします。皆さんの前で話すのをいただきましたので、本日は私の講話にしばらくお付き合いをおねがいします。

教会で育った私は、教会生活全般、特におつとめに対して常に反感を抱いてきました。幼い頃、親に言われたとおりに神殿の真ん中に静かに座り、ちゃんぼんを手にとって、言われたとおりに弾いていました。そののち、私は太鼓をやるようになりました—それはいつもとても楽しく、夕づとめで誰が太鼓をやるかについて兄やいとこたちといつも言い争いをしていました。笛は難しかったです。一回打つたびにどうやって音をうまく響かせるかを考えながら演奏しました。

しかし結局、朝夕のおつとめは、むしろ面倒な事であり必ずしも自分がやりたいことではないと感じるようになりました。おつとめが嫌いだったわけではないのですが、もっと楽しいことが常にありました。少なくともテレビで49ersの試合を見たり、友達とダンジョンズ&ドラゴンズのゲームをしたりすることの方がもっと楽しかったです。高校時代、夕づとめに参拝するために急いで帰宅するのは学年が上がるにつれ、ますます困難になり夕づとめに出ない理由をあれこれ見つけるようになりました。図書館で勉強するというのが、よく使う言い訳でした。

若い頃はおつとめから遠ざかっていた経験もありますが、大人になった今、振り返ってみると今の私の信仰、「大切だと思っている多くの事柄」というのはみかぐらうたやおどりについての小さな気づきの「瞬間」の数々が形成していることがわかります。何年もかけて、私は歌詞が私に教えてくれるいくつかのことに気付いてきました。あるおてふりの動きなども私の注意を引きました。



おつとめや信仰全体について、特別な啓示があったとは言えません。しかし、歌詞やおてふりの動きの中に私の信仰の輪郭を形作った小さな瞬間がたくさんあったと思います。

そこで本日の話の中で、こうした「瞬間」のいくつかを皆さんと共有し、私がなぜおつとめ、みかぐらうた、ておどりを心から大切に思っているのか、そしてなぜ私にとっておつとめを続けることが重要なのかをおわかりいただけたらと思います。

最初の「瞬間」は、私がかかなり幼かった頃、おそらく4歳か5歳くらいのときに訪れました。四下り目の四ツ「よるひるどんちやんつとめするそばもやかましようたてかろ」です。英語の翻訳の方が、意味はかなり明確です。日本語の「よるひるどんちやんつとめする」を私が4、5歳の頃に聞いたとき、お歌の意味は、ドンちゃんという愛称で呼ばれるドンという名前の小さな子供がいて、そのドンちゃんが近所の人たちを困らせるほどおつとめを精力的に勤めるという意味だと理解していました。そして、ドンちゃんのようになりたいたいと思いました。私たちみんながドンちゃんのように、近所の人たちをイライラさせるべきだとも思いました。

おつとめの歌詞に注目してみたら、おつとめが思っていたより面白くなると感じた最初の「瞬間」がこれでした。

2番目の「瞬間」は、もう少し後、おそらく高校生か大学生のときに訪れました。二下り目の七ッ「なんじふをすくひあぐれば」です。その年齢までに、私は人様を助けることが人生において重要なことだとわかっていました。しかし、ておどりの動きの非常に微妙な部分から、それ以上の何かがあることが分かりました。ておどりの動きにもっと注目すると、それは他の人を助けることの大切さだけでなく、どのように助けるかについても示していることが分かりました。この部分では、ほんの少しですが、体を一旦低くしてから、体を起こし、手で持ち上げる動作を表現しています。自分自身を少し低くするこの動作は、おそらく私たちが他人を助けるためには、まず自分自身を相手の立場に置いて、つまり「自分自身を低くして」そしてその立場から他人と自分自身を再び引き上げるように努めるべきだと説明しているのではないのかと気づきました。私たちは、今いる場所にただ安住しながら救いの手を差し伸べるのではなく、むしろ人様の立場に立って、共に立ち上がるべきだと思うのです。人様の経験を共有する「瞬間」こそが「人様を助ける」ことの重要な要素であることを学びました。

英語の翻訳では、このお歌の意味が十分に伝わっていないと感じます。英語の翻訳では「助ける」となっていますが、教祖の原文では「すくいあげる」という表現に近いです。

そして、苦しんでいる人々をすくいあげるとき、その努力から恩恵を受けるのはその人たちだけではありません。私が言いたいのは、次の歌、つまり二下り目の八ッを見ると、苦しんでいる人々を助けることに対する報奨はすべての人に及ぶということです。「やまひのねをきらふ」これはすべての人々にただけのご守護です。苦しんでいる人をすくいあげようとする私たちの個々の努力は、その人が良くなるだけでなく、病気の根源を取り除くことにもつながります。そして、心のほこりが病気の根源であると考えれば、苦しみからすくいあげる私たちの努力は、すべての人々の心のほこりが取り除かれることに直接つながると神様はおっしゃっているのです。つまり、私たちが最も弱い立場にある人々を助けようと努めるとき、最終的には、世界全体を最も深い方法でより良くすることにもつながるのです。

3番目の「瞬間」は、内なる強さと神様への信頼について、特に他人からのさげすむような見方や嘲笑に関して教えてくれました。誹謗中傷やあざげり、笑われたり、噂されたりというのは多く

の人々を悩ませます。これは特に若い頃の私の境遇にピタリ当てはまりました。みかぐらうたは、特にそのような瞬間に神様を信じなさいと教えてくれます。三下り目の五ッ「いつもわらはれそしられて めづらしたすけをするほどに」四下り目の一ッ「ひとがなにごといはうとも かみがみているきをしずめ」。おふでさきでも、「人のほらいを神がたのしむ」(I-72)と教えられています。これらの神様のお言葉は、他人からの中傷や嘲笑を心配する必要はないということを私に教えてくれました。

しかし、そうは言っても、これらのお言葉に対する私の理解にはどこかしっくりこないところがあり、人生の後半になるまできちんとした答えを見つかることができませんでした。「ひとがなにごといはうとも かみがみているきをしずめ！」このことばによって、神様が見ておられることを知り、確かに安心させてはくれました。しかし、問題は神様は誰を見ていたのかということです。若い頃、神様は私を中傷する人たちを監視しているのだと思っていました。ですから、私に向かって否定的なことを言う人たちは神様から罰を受けるのだと考えていたため、安心していました。確かに気持ちは楽になりましたが、それは自己満足の感覚で、神様が私に代わって仕返してくれるに決まってる、あるいはそれを期待しているというような感覚でした。気持ちはよかったです、あまりしっくりきませんでした。

そこで梅谷四郎兵衛に関する教祖の逸話に出会いました。四郎兵衛は、お屋敷で教祖のご休息所の壁を塗る「ひのきしん」をしていました。そうしているうちに、四郎兵衛がお屋敷でひのきしんをしているのは、他に仕事がないからだという悪口を他から言われるのを耳にします。その言葉に四郎兵衛は激怒したのですが…

『深夜、ひそかに荷物を取りまとめて、大阪へもどろうとした。』

足音をしのばせて、中南の門屋を出ようとした時、教祖の咳払いが聞こえた。「あ、教祖が。」と思ったとたんに足は止まり、腹立ちも消え去ってしまった。翌朝、お屋敷の人々と共に、御飯を頂戴しているところへ、教祖がお出ましになり、

「四郎兵衛さん、人がめどか、神がめどか。神さんめどやで。」

と、仰せ下された。』

この逸話を通して、教祖の関心は悪意ある噂話をする人たちではないことがよく分かりました。教祖の視線は、神様が見守る四郎兵衛に向けられ

ていたのです。教祖の親心は、四郎兵衛のひのきしんに対して他人が言ったことで、彼自身がどういう心境になっていたのかを心配されていました。教祖は四郎兵衛に、本当に大切なことは何なのかを明確に理解する時間を与えなかったようでした。教祖は、四郎兵衛がそのような瞬間にこそ信仰を強め、神様をさらに強く受け入れ、神様もまた彼を受け入れてくれるということを知ってほしいと願っていたのです。おさしづでは、次のように教えられています。

「腹の立てるのは心の澄み切りたとは言わん。心の澄み切りたらば、人が何事言うても腹が立たぬ。それが心の澄んだんや」 明治 20 年 3 月 22 日

神様は他人の無礼な言葉を通してさえも私たちがせいじんすることを望んでいるのだと知ることによって、「きをしずめ」ということの意味に対する理解が私の中で完全に変わりました。

残念ながら、誹謗中傷や嘲笑はこの世に常存在します。しかし、神様は私たちがそのような誹謗中傷や嘲笑をチャンスとして捉え、内面の強さを養い、人からの笑いを楽しみ、この世界に喜びの人生をもたらすことができる清らかな心に近づくことを望んでおられることを理解しようではありませんか。そして、常に神様を私たちの「めど」としましょう。

4 番目の「瞬間」は、五下り目のハッに関係しています。「やまとばかりやないほどに くに／＼までへもたすけゆく」簡単に言えば、これは世界中のすべての人々に救いが与えられるという神様からのメッセージでした。この一節の手の動きを見ればそれが分かります。私たちは指で右を指し、そして左も指します。神様は救いをもたらすために、両方向、「つまり全方向」に進んで行かれるのです。

これは、おちばの場所が述べられているお歌の中に出てくるため、救いの普遍性に関する神様からのメッセージはより一層顕著になっているのではないかと思います。五下り目は「場所」についてのお歌です。このお歌では、おちばという素晴らしい場所について歌うために、「場所」を表す手の動きを何度も行います。しかし、私たちの救いが根付くおちばとして知られる特定の場所に関するこのお歌の途中で、神様は救いが世界中でも起こることを強調しています。これは、陽気ぐらしが世界中のすべての人々を対象としているという事の強調だと感じます。

「おふでさき」にも、よりダイレクトに普遍性を説くお歌が複数あります。第 13 号には次のように記されています。



このみちハどふゆう事にをもうかな

よろづたがいにたすけばかりを 13 号 37

せかいぢうたがいにたすけするならば

月日も心みなひきうける 13 号 38

お道は世界中の人々のためにあるのであり、もし私たちがこの理想を抱くことができれば、神様は私たちの心を受け入れ、それに応じてお働きくださるでしょう。おふでさき第 13 号はこう続きます。

せかいぢういちれつわみなきよたいや

たにんとゆうわさらないぞや 13 号 43

これはまさに注目すべきお言葉だと思います。人間には家族や身内を保護し、他人とは線引きをする自然な傾向があるからです。しかし、神様は私たちに、より良い道があることを教えてくださっています。このお歌は、近代日本国家の樹立後最大の社会的混乱であった、日本での大規模な内戦の最中に神様によって書かれました。人々が互いに敵対し合っていた時代に、神様は私たち人間に「せかいぢういちれつわみなきよたいや たにんとゆうわさらないぞや」と教えられました。

このお歌を含む教典は「おふでさき」であり、天理教は第二次世界大戦中の 1930 年代後半から 40 年代前半の暗黒時代に、おふでさきの写本をすべて集めて破棄することを強制されました。天皇は神であり、日本国民は他の国民よりも優れていると説く大日本帝国は、「おふでさき」に書かれたこの包括

的な愛のお言葉を封じ込めようと思いました。

本日は、おつとめの歌とおどりが私の信仰と、自身の成長に非常に強い印象を刻み込んだ4つの「瞬間」についてお話ししました。長年おつとめをしながら、私は思いやり—いかに他者を助けるか—について学びました。内面の強さについて、また中傷や嘲笑に直面しても神様が私たち人間にせいじんすることを望んでいることについて学びました。そして、神様は私たち人間がすべての人にその思いやりと愛をあまねく広げることが望んでいると学びました。これに向けて毎日少しずつでも努力を重ねていくことで、みかぐらうたに込められた素晴らしい教えに基づいた努力はきっと話のたねとなり、神様とともにこの世に陽気ぐらしをもたらすため、私たちの支えとなり、活力となることでしょう。私が今日おつとめをする理由がそれです。

最後に、ドンちゃんの話に戻りたいと思います。ドンちゃんについての私の解釈は良いものだったと思います。熱意を持っておつとめをするのを学びました。しかし、私の解釈は正しくなかったことも分かりました。ドンちゃんというのは、近

所の人に迷惑をかけるために熱心におつとめする子供のあだ名ではありません。それは太鼓とちゃんぼんの擬音語でした。このことから私が学んだのは、たとえ私の心がどれだけ正しくても、みかぐらうたを理解しようとする努力は、時には間違っているかもしれないということを常に念頭に置くべきということです。本日の講話は私自身にとっても大切な教訓を教えてくださいました。それは、私たちは神様の言葉の前には常に謙虚であるべきだということ、そして神様は最後には必ず私たちを正しい方向に導いてくださるということを知っておくべきということです。

皆さん、ご清聴に感謝いたします。これにて講話を終わらせていただきます。

ありがとうございました。



成人の節目、教祖140年祭に向けて

2026年1月26日におぢばでつとめられる教祖140年祭まで、残り1年を切りました。明心アメリカ教会では、2022年からフラワーアレンジメントの教室を開催しています。もともとは女性たちが集まり、楽しい時間を過ごせる場を提供することを目的として始まりましたが、現在では大事な教会の行事として月に一度欠かせない集まりとなっています。

このフラワーアレンジメント教室は、講師のサツキ・スタージス先生（ブラジル伝道庁）やりタ・ゲラさん（島ヶ原）をはじめとする地区の方々のご協力により実現しました。過去2年間、毎月開催し、サツキ先生が勤務先から花を持参し、美しいセンターピースやリース、その他のアレンジメントを作成し、参加者がそれを真似てアレンジし、作品を持ち帰るという形で行われてきました。

現在は隔月でフラワーアレンジメント教室を開催しており、他の月には参加者の方々々が極められた趣味などの技術を共有する場として編み物教室を開くなど、新たな試みを始めたいです。

皆さんのひのきしんによる惜しみない努力のおかげで、この教室は教えを実践する場として、また新しい方々に教えを伝える場ともなっています。

今後もこのような教室を続け、いずれは地域の方々とも信仰の喜びを分かち合えるよう努めてまいります。





伝道庁連絡



3 月月次祭

祭主 庁長
 扨者 川上和海 増野大励
 賛者 伊藤光春 富澤ポール
 指図方 長谷川邦昭
 神殿講話 林 孝彦 (英)

教会事情

タミナル教会：神殿屋根葺替願、
 遷座祭日願 (2 件)、臨時祭典願
 おはこび：2025 年 3 月 26 日
 鎮座祭：2025 年 5 月 30 日
 奉告祭：2025 年 5 月 31 日
 高知オマハ布教所
 2025 年 2 月 4 日解散届受理

お出直し

アメリカ伝道庁で書記をつとめられた、本部准員・上村眞一先生が、4 月 7 日 (月) にお出直しになりました。享年 81 歳。
 みたまうつしは 4 月 9 日午後 6 時 45 分、告別式は 4 月 10 日午前 10 時に、第 12 母屋で執り行われました。ご生前の御功績に厚く御礼申し上げます。

全教一斉ひのきしんデー

ひのきしんデーを実施された地区の担当者は、実施報告書を伝道庁 (担当：増野) までご提出下さい。

第 85 回アメリカ修養会

第 85 回アメリカ修養会が、6 月 15 日 (日) から 7 月 12 日 (土) まで開講予定です。
 開講約 1 ヶ月前 (5 月 18 日) までに、英語・日本語クラスは 2 名以上、スペイン語クラスは 5 名以上の申し込みがある場合に限り開講予定です。

アメリカれつ会新規扶養生募集

2025 年のアメリカれつ会新規扶養生の募集を開始します。対象は、管内教会長、布教所長、出張所長の子弟子女で、大学入学が決まっている方です。扶育を希望される方は、伝道庁に願書を用意しておりますので、ご連絡下さい。願書締切は、6 月 30 日 (月) です。新規扶養生は 8 月伝道庁月次祭時に発表致します。尚、2、3、4 年目の扶養生は、願書の提出はありませんが、休学、転校等があった場合、8 月 31 日までに必ず伝道庁までお知らせ下さい。

南カリフォルニア山火事募金・ひのきしん活動

南カリフォルニアでの山火事災害への募金は、\$17,042 集まりました。
 尚、天理教国際たすけあいネットより \$15,000 を預かりました。また、ハワイ伝道庁より \$5,000 の義捐金を預かる予定です。
 後日、伝道庁に集まった義捐金と共に「南カリフォルニアでの山火事」の災害救援活動に役立ててもらえるよう「Emergency Network Los Angeles (ENLA)」に寄付致します。

立教 189 年 1 月と 4 月の別席に関して

教祖 140 年祭前後の 1 月や御誕生祭前後の 4 月は、別席者の増加が予想されることから、事前にライブの日時を決めています。天理教ホームページの「別席外国語スケジュール」、または海外部のホームページの「別席外国語スケジュール」から、予定をご確認ください。



教会本部ホームページ



海外部ホームページ

各会連絡

布教委員会

・教会長・布教所長・出張所長の伝道庁月次祭当番を、今年半ばを目安に再開する検討をしております。当番表作成のため、後日係の者から連絡を取らせて頂きます。

教化育成委員会

・TSA 春季練成会を 5 月 24 日 (土) ~ 26 日 (月) で開催します。
 内容：ひのきしんや、講義に加え楽しい行事も企画しています。
 ・ニューヨーク地区での Three Day Course は、3 月 28 ~ 30 日の期間で開催され、5 名の方が参加しました。

広報委員会

- ・教祖140年祭に向けて活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先

川上 (kamishuyo@hotmail.com)

林 (takhayashi@gmail.com)

- ・伝道庁ホームページにて、「祭典講話」、「SoulFire」の記録ビデオ、「Stories inspired by Oyasama」等のアップデートに加え、「90年の歩み：写真展」、「アメリカ婦人会70年史」のスライドショーも掲載されています。是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々に紹介いただきますようお願い致します。また、domain name も Tenrikyo.com から TenrikyoAmericaCanada.org に変更されました。

翻訳委員会

- ・SDM コアメンバー翻訳会議 3月28日～4月4日 5～7下り目の最終確認。

Future Path 委員会

- ・引き続き、2025年8月30、31日に開催予定の天理教原典勉強会の計画をしています。

婦人会

- ・天理教婦人会第107回総会
年4月19日(土)
午前9時30分 於 本部中庭
記念行事 支部の集い
別席強調月間 3月1日～4月30日
- ・アメリカ婦人会総会
5月17日(土) 午前10時 於 伝道庁
- ・こかん様に続く会
5月17日(土) 午後1時半 於 伝道庁
- ・ベイクセール 5月18日(日) 月次祭終了後
主催：アメリカ婦人会女子青年

少年会

- ・少年会キャンプ 6月20日(金)～22日(日)
申込書リンク <https://forms.gle/3Wn58k7brDhhLuyi9>
- ・アメリカ団のこどもおちばがえりは7月24～30日までの期間で開催する予定です。また、海外少年ひのきしん隊は7月25～30日の期間で開催されます。申込書が配布されていますので、お早めにご提出ください。

Following in
the Footsteps of
Kokan

STRENGTHENING COMMUNITIES TOGETHER

Date:
May 17th, Saturday

Time:
1:30pm - 3:30pm

Location:
Tenrikyo Mission
Headquarters in
America

Join us for a discussion
about Kokan followed
by a hinokishin activity
preparing snack packs
for the Downtown
Women's Center

IG @americaywg
Scan for more
Young Women's
Group Updates

- ・少年会総会は8月16日(土)に開催します。今月役割表を配布しますので、練習を始めてください。申し込みがまだの方はお早めにお申し込みください。
- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、上記メールアドレスまでお知らせ下さい。
- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。

青年会

- ・アメリカ青年会総会を、6月14日(土)午前10時30分に開催します。総会後は、ひのきしんを行いますので、ひのきしん用の服をご持参ください。夜はドジャースの試合観戦に行きます。アメリカ青年会員へ割引チケットを準備していますので、チケットを購入したい会員は委員長(ウォング遼:wongryo@gmail.com)までお問い合わせください。
- ・第99回天理教青年会総会は、10月25日(土)午後1時より本部中庭で開催予定です。

NYセンター

- ・4/19 少年会鼓笛演奏
フラッシング・メドウ・コロナパークでの桜祭り
- ・4/26 ニューヨーク青年会ひのきしん隊(～27)

雅楽おとまり会

去る3月29、30日、20回目となる少年会、学生会層を対象とした、雅楽おとまり会が開催されました。それに先立って、3月15日につとめられたアメリカ伝道庁春季霊祭では、メンバー6名が奏楽をつとめました。



VOICES

天理教アメリカ青年会

今月は、TY-MANAの大切なメンバーであり、10年以上にわたって西カナダ地区代表を務めた服部峻さんの追悼メッセージをアンディ國領さんにお願ひしました。俊さんは2024年12月2日、奥様的美穂さんと2人の娘さんを残して出直されました。

服部俊介について記事を書く機会をお与え頂き、皆さんに思いを共有させて頂けることに感謝の気持ちでいっぱいです。まずは、数年前に俊と交わした会話から始めたいと思います。

私： 俊くん、声デカイねん！

俊介： え？誰が気にするん！？見たきゃ見りゃいいよ。私： いや、でもみんなめっちゃこっち見てるで(笑)

俊介： 正直、そんなこと気にするのとくくにやめたんよ。

私： まあでも、恥ずかしくないん？

俊介： ぼら、俺はそんなに賢くないし、親切でもないし、何か得意なことあるわけでもない。だからせめて笑ったことと思って。それで誰かが楽しくなったらよくない？ならんかったとしても別に気にせん(笑)

俊介は私の人生のすべてと言っていいほど大切な存在でした。家族ぐるみで親しくしていましたが、特に深い関係になったのは、2016年から2017年にかけて天理で同時期に暮らしてからです。住んでいた寮は同じブロックにあり、2人とも海外部で勤務していました。そして、いやが応でも毎日顔を合わせていました。きっと皆さんも、俊にまつわるエピソードをたくさんお持ちでしょう。私は彼との思い出は一生大切にしようと思っています。若い頃、彼のスラムダンクの漫画を全巻借りたが、読み切ることができなかったこと。年上だからといって、帰りにコンビニでお菓子を買っ

てきてくれた夜のこと。美保との初デートの後、彼がどんなに嬉しそうだったか。そして娘のイロハとニコの誕生が彼の人生をどれほど変えたか。しかし、どの思い出にも共通していたのは、彼の笑い声でした。あの大声で甲高く、それでいてつられてしまうような笑い声。多くの人が彼のその笑い声に惹かれたことでしょう。俊介は、一緒にいると少し恥ずかしく感じることもありましたが、それでも常にそばにいたくなる、そんな特別な存在でした。自分にとって俊介という存在を言葉で表現するのはとても難しいです。彼はずっと年上でしたが、私はよく彼を見守らなければならぬと感じていました。彼は頑固で、でも無欲で、せっかちで、そして思いやりがありました。何よりも彼は自分自身に正直でした。彼は「見た目通り」のタイプの人でした。子供たちや甥や姪の話をするのが大好きで、自分のことはほとんど語りませんでした。彼とはよく口論をしましたが、それが関係に悪影響を与えることは決してありませんでした。

どのように締めくくるべきか迷いますが、もし俊介が今ここにいたら、「あまり深刻に考えずにリラックスしたらいい」と言うでしょう。私は「俊、声デカイねん」と返し、そして今日も彼の笑い声を思い浮かべながら、一日を過ごしていくのだと思います。

彼の笑い声とともに、これからも。

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.